

火傷病の侵入に注意！

火傷病とは？

エルビニア・アミロボーラという細菌（火傷病菌）による植物の病気です。リンゴやナシなどのバラ科ナシ亜科植物に広く感染し、大きな被害を起こします。

日本に発生していないため、海外から宿主植物の枝や果実などの輸入を禁止して、侵入を強く警戒しています。



火傷病の生活史

火傷病菌は、宿主植物の枝や幹の中で越冬し、春になると活動を始め、増殖した菌が、風雨や昆虫などで他の植物に運ばれて広がっていきます。

一番病気にかかりやすい部分は「花」です。菌は柱頭などから侵入し、葉や枝へと広がります。また、傷などから菌が侵入することもあります。病気になった花、枝、葉、果実で菌が増殖し、風雨などで次々と感染が広がっていきます。

りんごの症状



花の症状



葉の症状



新梢の症状



新梢上の火傷病菌の塊

セイヨウナシの症状



新梢の症状



幼果実の症状



新梢上の火傷病菌の塊

○花の症状

開花期に風雨や昆虫で運ばれた火傷病菌が柱頭などに侵入することにより花全体がしおれます。感染した花は、りんごでは褐変、ナシでは黒変します。

○葉の症状

火傷病菌は、葉の傷や気孔から侵入して病気を起こします。花に侵入した菌が葉柄を通じて病気を起こすこともあります。葉脈に沿って褐色や黒色の病斑が広がり、やがて葉全体が枯れていきます。枯葉は枝に付いたまま残ります。

○新梢の症状

風雨により運ばれた火傷病菌が傷などから侵入すると、新梢は褐変又は黒変し、先端が垂れ下がる特徴的な症状を示します。これには火傷病菌の塊を伴うことが多くあります。

○幼果実の症状

幼果実で発病すると、褐変又は黒変し、生育が止まります。果実表面に火病菌の塊が見つかることもあります。果実はミイラ状になります。



もしも、このような症状を見つけたら？

以下の機関にご連絡下さい。

・都道府県病害虫防除所

・最寄りの植物防疫所

横浜植物防疫所

業務部国内検疫担当 045-211-7155

名古屋植物防疫所

国内検疫担当 052-659-1357

神戸植物防疫所

業務部国内検疫担当 078-389-5320

門司植物防疫所

国内検疫担当 093-321-2809

那覇植物防疫事務所

輸出及び国内検疫担当 098-868-1679

・農林水産省消費・安全局植物防疫課

03-3502-8111 内線4564

写真の転載について

本パンフレットに掲載されている写真の無断転載を禁じます。

詳細については、果樹研究所情報広報課広報係(TEL:029-838-6447、e-mail:fruitkoho@naro.affrc.go.jp)、又は横浜植物防疫所国内検疫担当(TEL:045-211-7155、e-mail:yokohama_yushutsu@pps.go.jp)までお問い合わせください。